

電子複写不可

1400

昭和二十二年

独立混成旅団空襲戦闘詳報

防衛研究所戦史部



280

4.

一二三
空
不
級
斗
洋
報

昭示
結
之
限
成
才
育
口
林
因
(
查
美
德
之
島
地
也

RS 05396
Cincpac-Cincpoa
B- 2 6981
OKINAWA 24 July

一月二十二日空襲戰鬥詳報

昭和二十年一月
編五環成第六十四番

26104H
156410
24219

一敵機未襲前狀況

1. 軍情報ヲ綜合シ敵機動部隊ハ二月十日ニ度一ニ度E二四度一

二ニ度附近海面ヲ遊ヤシアルヲ知ル

2. 一月二十一日二二二五記電報ヲ受領ス

記

(一) 〇八〇〇一〇ハ三〇ノ間 〇一機沖繩本島ヲ偵察高度一萬米

(二) 〇九〇〇小型機四機宮古島ニ未襲

3. 軍ハ一三二五南西諸島全地区ニ西號戰備下令ヲ電報ヲ二四〇受領ス

4. 守備隊長ハ右西號戰備ヲ各隊ニ傳達シ(離島ハ電報)對空對潜

警戒ニ遺憾ナキヲ期スルト共ニ軍需品及陣地ノ秘匿等ニ努ム

5. 一三三〇及一五〇八軍ヨリ左ノ西女目ノ電報ヲ受領ス

(一) 一三三〇小型機十三機小綠飛行場ニ未襲 目下判明ナル戰果

(二) 一三三〇宮古島敵編隊進入中

6. 守備隊ハ愈々警戒ヲ嚴ニス

夕一月二十日一〇一〇大北地区隊長ヨリ海軍ヨリ通報ニ依リ六南方ヨリ敵機ヲレキテノ侵入ハ八五五大北地区空襲警報レ旨電報ヲ受領直ニ之ヲ各隊ニ通報シ益々警備ヲ嚴ニス

二天候氣象等ノ狀況
徳之島八二十日快晴二十日曇雲量 高層雲 九 雲高 高層雲二五〇米 層積雲 七 雲高 層積雲二〇〇米
視程ニハ新北西風四米 日出 〇七五 日没 一七四
月出 一ニ五七 月没 〇一八 午前滿潮 〇三〇 千潮 〇七四
午台滿潮 一〇〇 千潮 二〇五

三敵機來襲狀況
ノ喜界島地区
ハ八五〇敵艦載機グラマンハ機高度約四〇〇ニテ同島上空ニ侵入ハ九〇ヨリ主トシテ海軍飛行場等ヲ銃爆撃シ海軍高再砲ハ一機ヲ撃墜ス 〇九一五 西方ニ脱去ス
海軍撃墜ニ依リ陸軍被害ナカリモ海軍飛行場ニ輕微ナル損害アリ
民間ノ損害六死亡ニ及ビ傷九家屋全壊ニ三半壊ニハ
敵機大破一(船員一行衛不明) 馬爆死三十リ

2. 大島本島地区

第一次 〇九ニ敵艦載小型五機侵入二隊ハ〇九ニ六名瀬港外ニ坐礁中ノ船舶ニ銃爆撃ヲ行ヒ他二隊ハ〇九三三ヨリ小湊沖及伊須湯沖等ニ於テ航行中ノ機帆船ニ對シ銃爆撃ヲシレ一〇一〇脱去ス

第二次

一五三六大島海峡南方ヨリ艦載七機侵入赤尾木及請島東方海上航行中ノ機帆船ニ銃爆撃ヲ加ヘ一六〇八南方ニ脱去ス

3. 徳之島地区

一〇〇五艦載グラマン七機徳之島北方天城山嶽上空ヲ越ヘ高度約二〇〇米ニテ侵入投弾スル事ナク南方ニ通過ス
守備隊長ハ直ニ左記、如ク空襲警報ヲ発令シ電報ヲ以テ軍ニ報告ス

- 一 空襲警報發令 一〇〇五
- 二 奄美守備隊長
- 三 敵グラマン四機徳之島上空ヲ北ヨリ南へ通過セルニ依リ尚十時徳之島小湊ニ航豫定ナリ沖永良部島行和泊丸

二出港待テラ命ス
 一ニ五守備隊長ハ空襲ノ算ナシキニ依リ空襲警報ヲ解除シ
 軍ニ報告スルト共ニ和泊丸ニ出帆ヲ許可ス
 一四ニ三電津監視哨ヨリ敵機七機徳之島ニ南方ヨリ侵入ストノ電
 話報告アリ直ニ守備隊全地区ニ空襲警報ヲ發令ス
 一四ニ五東南方ヨリ敵艦爆機二機(グラマンTBF及カーナスSB2C)
 徳之島上空ニ侵入概ネニ没トナリ層層積雲ノ間隙ヲ縫ヒテ
 飛行場迄ニ其ノ周邊ヲ銃爆撃シ又伊仙附近ニ投彈シ電津
 龜徳附近ノ民家ヲ銃惠ス
 是ヨリ先沖永良部島ニ向ヒ一三五〇山港ヲ出發セシ曉部隊徳之島出
 張所ニ微用船和泊丸及船舶工兵第三六聯隊第三中隊長良少
 尉指揮ノ發動艇二隻ハ一五〇井之川沖東經二九度三分
 北緯二七度四七分海面ニ於テ突如南方ヨリ北進スル敵艦載機
 グラマン七機ノ銃掃射ヲ受ク直ニ進路ヲ陸岸ニ向ケ全速
 カニ進行ス敵機ハ執拗ニ機銃掃射ヲ及覆セリ
 第二回目掃射ニ機関部火災ヲ生シ炎上シテ海岸ニ向ヒ急進
 ス斯多船ハ井之川海岸ニ坐礁セリ此間敵機ハ第三第四
 回目ノ機銃掃射ヲ加ヘ和泊丸ニ乗船中ノ沖永良部島地区

地區隊長吉岡少佐ハ靈部ニ首尾銃剣ヲ以テ兵四名船員一名ト共ニ
 壯烈ナル戦死ヲ遂ク放團司令部長高級部員中溝中佐 高級主計多
 田主計大尉及兵一船員ニ負傷ス(西將校ハ輕傷ナリ) 此間
 長良少尉ハ瀕着機銃ヲ制シテ旋回機銃ヲ以テ射撃セシモ故障
 マシ兵一員傷ス
 一方西方海岸ニ於テハ一四〇〇平土野出發沖永良部島ニ向ケ航行
 中ノ船舶工兵第三六聯隊第三中隊加藤少尉指揮スル發動艇
 二隻ハ一四三五秋利神川西南方約二五里地點ニ於テ飛行場
 方向ニ黒煙ヲ上ルヲ発見シ直ニ航路ヲ陸岸ニ近ク變更急進ス
 一五〇敵グラマン四機來襲爆彈ヲ投下基準艇ニ向ヒ先ツ急
 降下銃撃ヲ行ヒ基準艇ハ遂ニ火災ヲ生ス
 加藤少尉ハ沈没ニ類スル毎艇ニテ沈着指揮セルモ遂ニ兵二名ト
 共ニ壯烈ナル戦死ヲ遂ゲ斯クテ敵機ハ一五三〇徳之島上空ヲ
 去リ敵ノ飛行場ニ投下セシ爆彈ハ三四發(滑走路六發内不發
 一場内二八發)内不發四及附近部落ニ發シテ漏斗孔ハ主トシテ
 概不直全一〇米深サ約四米一節ハ小型油脂燒夷彈ナリ

又偽飛行機ヲ銃撃セリ且飛行機ハ遠敵及偽裝効ヲ奏シ一
發ノ銃撃ヲ受ケズ 彈痕補修ハ飛行場中隊主力及
第五二特設敬言備工兵隊主力之ニ任ジニ三日ニ滑走路ノ
補修ヲ完了セリ

々 沖永良部島地區

一ニゴグラマン六機侵入後四復察後一三〇南方ニ脱去ス

五一月二十三日 來襲ノ算少キニ依リ守備隊長八一三三三空襲警
報ヲ解除ス

六 徳之島及大島本島ニ於テ敵機ノ航跡圖要圖第一第二
第三ノ如シ

七 井之川海岸附近ニ於ケル戰鬪經過要圖第四ノ如シ

八 秋利神川河口附近ニ於テ戰鬪經過要圖第五ノ如シ

四 飛行場被彈狀況要圖第六ノ如シ

敵機ノ攻撃法及機種

ハ 攻軍法

中空ヨリ侵入シ急降下爆撃又ハ銃惠ヲ行ヒ直ニ中空ニ上昇
脱去シ飛行場・船舶及部落ノ大ナル家屋・偽陣地等ヲ銃
爆撃セリ

附録

昭和二十年一月二十五日

二月二十日空襲ヨリ得タル教訓ノ兩項ニ對スル所見ノ要旨

奄美守備隊司令部

目次

第一 緒言

第二 所見

第三 結論

附録

一 徳之島ヨリ南方要點ヘノ距離

二 米軍飛行機航續距離技萃

三 戰備ノ度

第一 緒言

各隊より提出シタル「月三十一日空襲」ヨリ得タル教訓「中六守備隊戦力強化」ニ参考トスベキモノ多シ

其ノ中ノ二項目ハ極メテ卒直ナル意見キシテ左ノ如シ

一〇一〇空襲時ノ教訓、如ク午前中ニ來攻機ハ偵察乃至小

數機ノ攻撃ニシテ數時間、後第二次攻撃ヲ必至ト判断シ空

襲警報ヲ續行スルノ必要切ナルモアリ

(一) 敵機種ニ依ル警報解除及防空態勢ニ就テ

敵機ノ種別即チ艦載「グラマン」機等ニ於テハ敵機動部隊

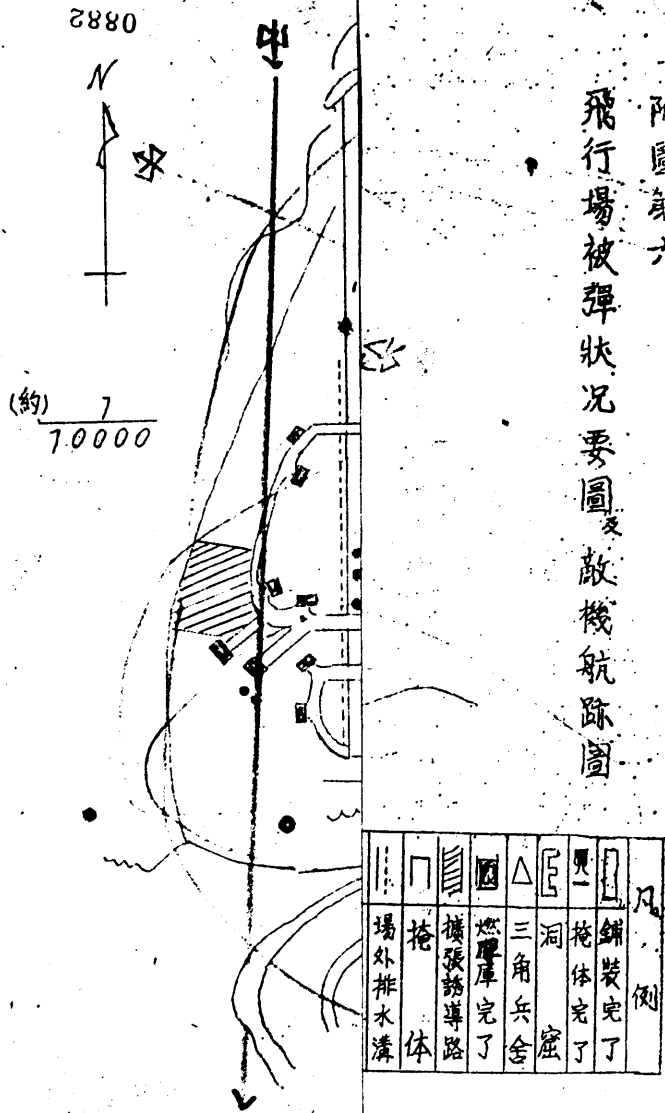
接近シ行動半徑ニ於テ再度攻撃「マル」ト必至ト豫想判断シ

波狀攻撃ヲ覺悟セザルベカラズ

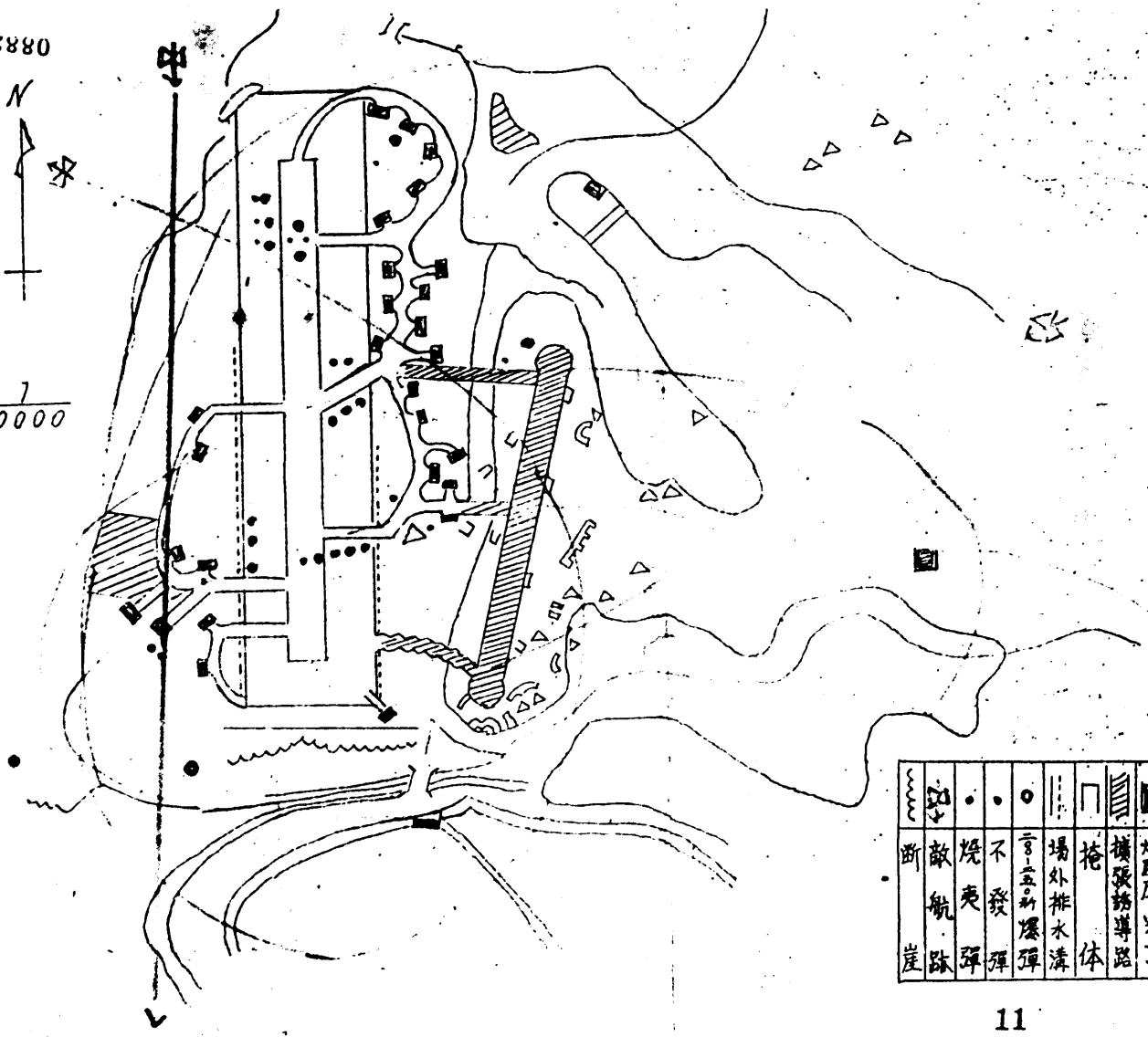
從テ空襲警報解除ハ一考ヲ要ス

附圖第六

飛行場被弾状況要圖 敵機航跡圖



0882
N
(約) 7 / 10000



飛行場被弾状況要圖 敵機航跡圖

断崖	敵機航跡	焼夷弾	不發弾	言立所爆弾	場外排水溝	掩体	擴張誘導路	燃庫完了	三角兵舎	洞窟	一掩体完了	鋪裝完了	凡例
----	------	-----	-----	-------	-------	----	-------	------	------	----	-------	------	----

敵機、種別即ヶ艦載「グラマン」機等ニ於テハ敵機動部隊
 接近シ行動半徑ニ於テ再度攻撃「マート」必定ヲ豫想判斷シ
 波状攻撃ヲ與見悟セザルハカラス
 從テ空襲警報解除ハ一考ヲ要ス

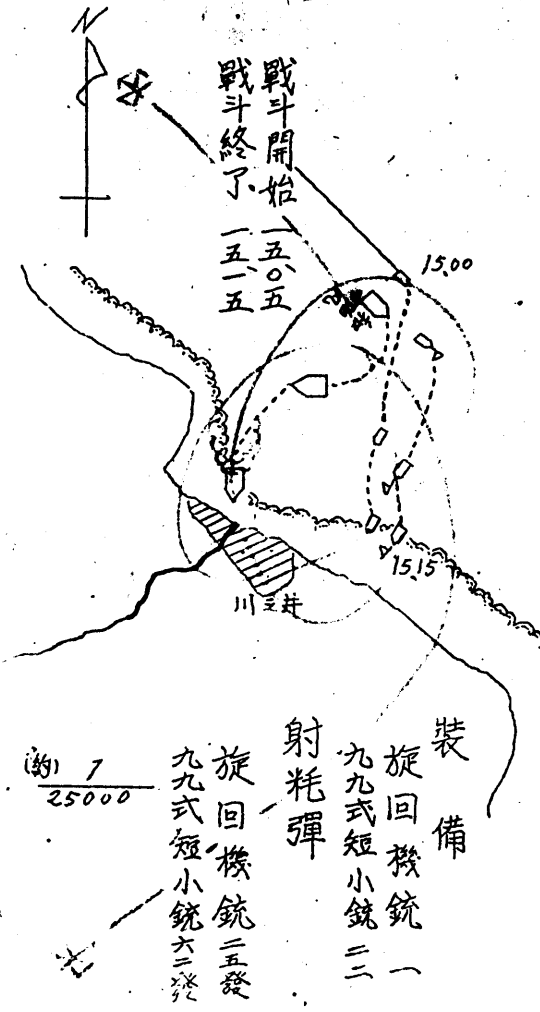
附圖第五

船舶工兵第二十六聯隊第三中隊

加藤小隊戰鬥經過要圖

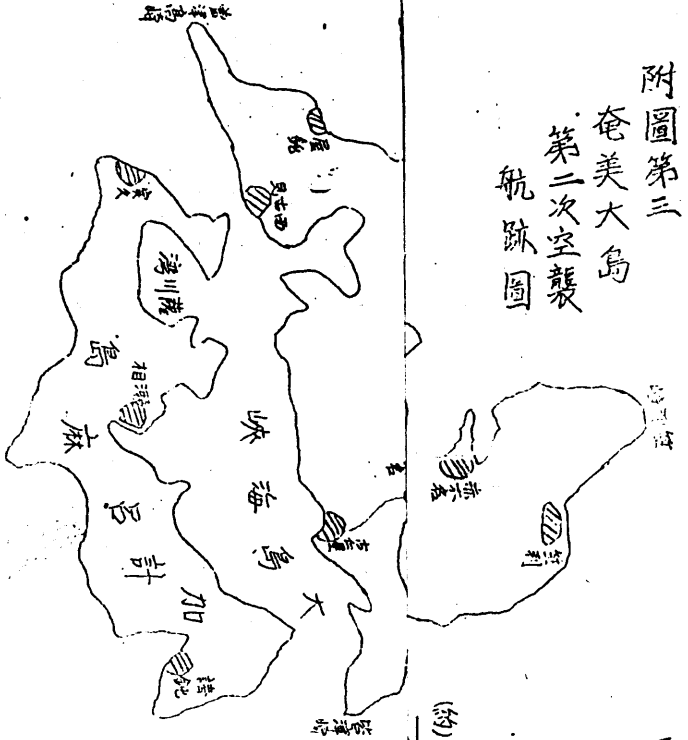


8880



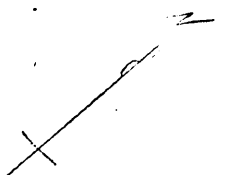
附圖第四
 船舶工兵第二十六聯隊第三中隊
 長良小隊及機帆船和泊丸戰鬥經過要圖

0885

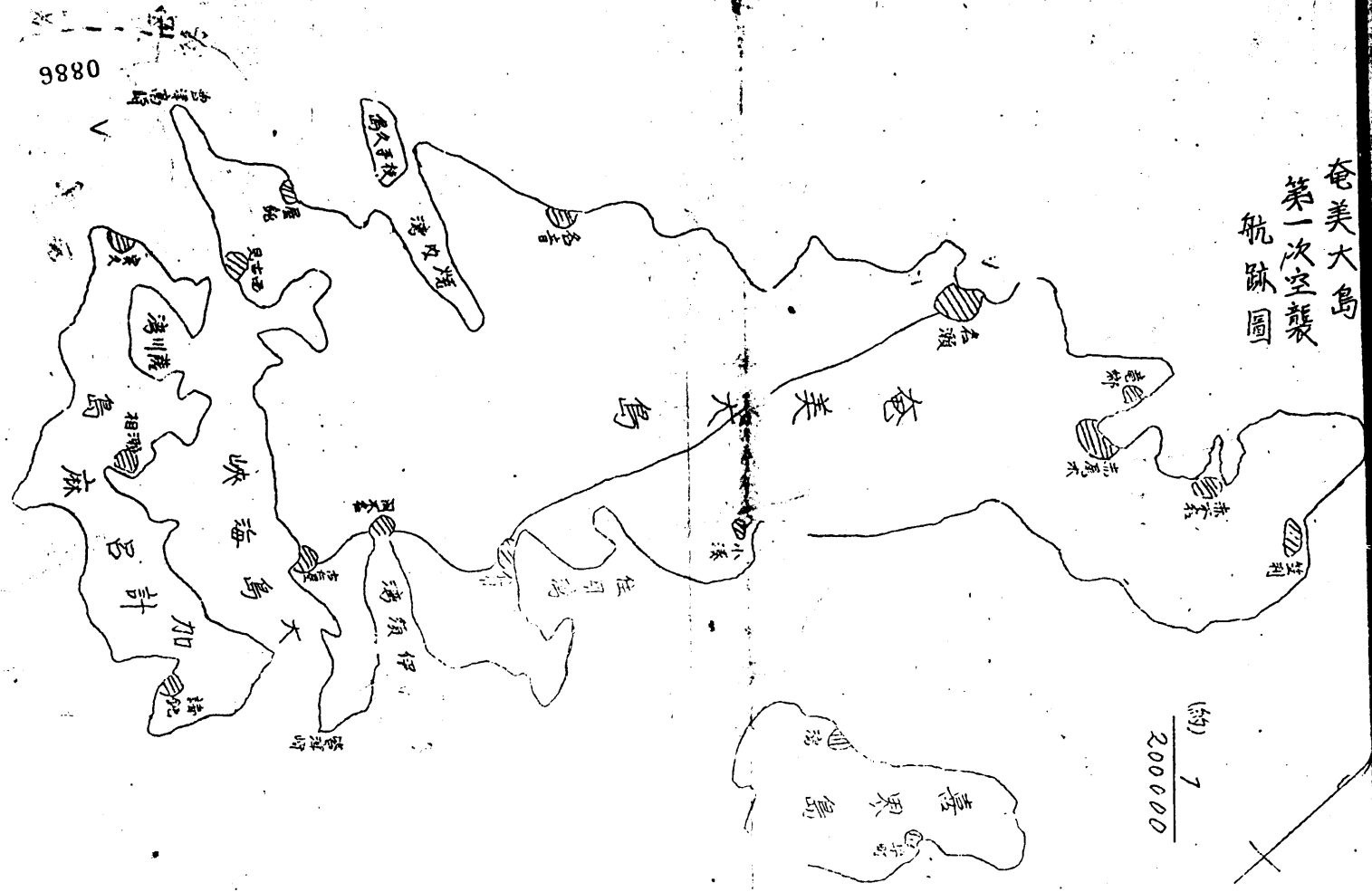


附圖第三
奄美大島
第二次空襲
航跡圖

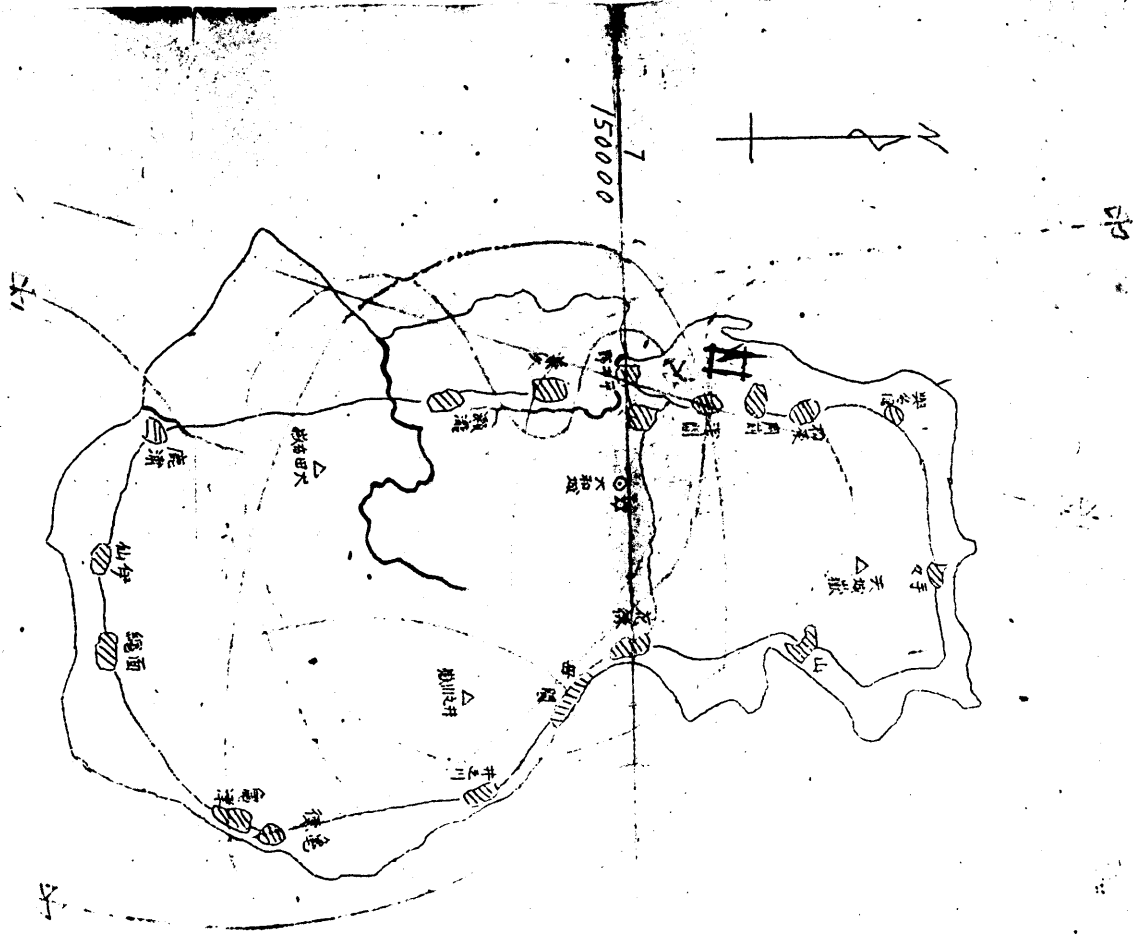
附圖第三



奄美大島
第一次空襲
航跡圖



0886



附圖第一
德之島敵機航跡圖

例凡

附表第五

		一		二		空襲糧秣損耗表	
品目	員數	箱呼	品目	員數	箱呼		
乾パン	四	箱	ビタミン錠	九〇	箱		
玄米	六〇	箱	救急食	一〇六五	箱		
粉味噌	二四八	箱	煙草	五七六〇	本		
粉醬油	八	箱					
食塩	三	箱					
携帶燃料	二	箱					
尋常罐詰	一四四	箱					
食用油	一五三	箱					
梅干	一五四	箱	備考				
茶	一二	箱	以上六和泊丸積込品及舟				
晒若布	九八	箱	艇乗員毛織品燒失海没				

附表第四

一二三空襲被服損耗表

品目	員數	摘要	品目	員數	摘要
水筒	一三		計	三四六〇	
九九式被甲	一九		階級章	二八一三	
毛巾	三八六		除毒包	九	
雨外套	一八		手袋	一三	
夏袴下	一七		襟布	一八	
夏襦袢	一六		靴下	五五	
略袴	五	以下同	背囊	一	
帽章	五	及流失	携帶天幕	三	
夏袴	一五	沒三儿燒失	編上靴	一六	
夏衣	一二	艇發火沈	卷脚絆	一三	
略帽	九	和泊丸及舟	雜囊	一九	

附表第三

		一二三空襲兵器損耗表		一二三空襲兵器損耗表	
計	品目	部隊別		計	摘要
		球	砲		
	九九式短小銃	一〇〇	四	一〇四	被彈發火ニ依ル 搭載兵器及携
	三十年式銃劍	一一一	七	一二八	帶兵器ノ燒失
	鐵製大發動艇		四	四	沈没ニ大破一 小破三
計		二二一	一五	二三六	

備考 尚和泊丸乘組員 船長以下七名ヲリ	計	平野大發		小港		出港船別分		將校	兵	船員	計	將校	兵	船員	計	
		計	大發	和泊丸	大發	和泊丸	計									大發
	二		一	一				一								
	六		二	四				四								
	一			一				一								
	九		三	六				六								
	二			二				二								
	七		五	二	一			一								
	二			二				二								
	二		五	六	一			五								

一、二、二空襲兵力損耗表

附表第二

附表第一

合 計	品 目				部 隊 名
	三八式野砲	榴彈甲彈藥筒	三年式復動信管	九九式普通彈藥筒	
三〇				三〇	一二二空襲射純彈
八八				八八	球七六五
六一二				三二四	球八四八二
			二三八	三二四	曉一六七四四
二七三二	一	一		四九二	球二七四〇
			二三八		計

6. 特設警備工兵隊未教育兵、夜間ニ於テ補修作業ハ良好ニシテ
 隊長以下自信ヲ得タルモノト認ム
 7. 部下、卒直ニ戰訓意見ニ對スル説明ハ附録「ニニ空襲
 ヲ得タル教訓」兩項ニ對スル所見ノ要旨ノ如シ

二 機種

カーチス艦載爆撃機 (C) 及グラマン艦載機 (F) 及 (BF) ト
判断セリ

五 敵潜水艦ノ状況

本空襲前夜日潜水艦出現ノ情報ニ接セザシモ當日書(間)二〇五
一三三五及空襲夜直前島津沖合東方ニ〇〇米ニ浮上又同夜三〇〇
頃發火信號ヲ行ヒ尚信號彈ヲ發射セリ

六 戦果

連隊 一機 (喜界島海軍防備隊高再砲)

七 射撃彈附表第一ノ如シ

八 我方ノ損害附表第三三四五ノ如シ

九 地方官民關係事項

一 大島本島地区ノ緊急戒嚴令ハ民情報トシテ平土野郵便局
ヨリ速ニ通報ヲ受ク

二 第二次空襲時敵機侵入ヲ迅速適切ニ速報セシハ電津警言察

署アリ

- 3. 住民の前回(一九二〇)ノ空襲ヨリ經驗及防空演習等ニ依リ積極的ニ防空ニ任シ又流言無ク概ネ沉着行動セルモト認ム
- 10. 戰訓及將來參考トスルべき事項
 - ノ本日ノ空襲ハ昨(一九二〇)ノ空襲ト同様午前偵察、午右本格的空襲ヲ容員花セリ 但シ今回ハ飛行場ノ爆撃ヲ主トシ尙附近航行中ノ小船船ヲ求メテ銃撃セリ
 - 2. 海上ニ於テ大發動艇及機帆船等ノ損害アリタル遺憾ニテ陸上ニ於テ特ニ報告スベキ損害ナシ
 - 是ニ回ニ互リ容員花セル徳之島全軍官民綜合防空訓練ニ員ノ所大ナリト信ス
 - 3. 一〇〇空襲ニ鑑ミ敵ノ航路ヲ良ク射撃シ得ル如ク飛行場附近ニ重墜陣地ヲ占領シテタル所敵ハ之ヲ避ケ行動シ遂ニ墜スルヲ得ザリキ 然レドモ我飛行機ニ對スル爆撃手等適切ナラザリテ以テ墜陣地占領ノ價値ハ大ナリシモト認ム
 - 4. 飛行機ノ分散偽裝亦効果大ナリシモト認ム
 - 5. 偽飛行機ハ敵彈ヲ吸收セリ利用價値大ナリト認ム

第二 所見

B29ノ如キ遠距離爆撃機ニアリテハ其地遠隔爲空襲地點ニ對シテハ大風一過的攻撃ニシテ警報解除ハ敵機ノ脱去直後又ハ一二時間後ニ於テ實施スルモ可ナリ

守備隊長ハ此ノ着眼ニ鑑ミ意ヲ表シ此ノ卒直ナル意見ニ感謝ス此卒直ナル意見ニ對シテハ直ニ卒直ニ説明スルヲ適當ト認ム

諸官承知通り高級部員ハ戦傷入院中ニ付守備隊長直接説明ス 尙高級部員ノ負傷ハ輕傷ニテ日テラ退院見込ニ付安心ヲ乞フ

空襲警報ヲ解除ノ際「當目或ハ再度空襲アルモ計ラズズ」トナヤモ計ラズ

但シ全般ノ狀況特ニ和泊丸ノ出帆ヲ考慮シ解除スルヲ適當ト認ムト判断セリ

何故今日ハ全クナカルベシト思フ迄待タザリシヤ
待チ得ザリシナリ

何故ニ

和泊丸ハ當日沖永良部島へ向テ一〇〇〇出帆豫定ナリシモ一〇五
敵機徳之島ヲ通過セルニ依リ出帆待テヲ命ゼリ

之ヲ何時解除スベキヤハ問題ナリキ

任務ハ決心ノ基礎ナリ

和泊丸ハ次ノ任務ヲ有セリ

「和泊丸ハ二十六日名瀬ニテ徴兵検査ヲ受クベキ沖永良部島壯丁
ヲ検査ニ合フ如ク名瀬ニ輸送スベシ」

故ニ和泊丸ハナルバク速ニ和泊港へ送ル必要アリキ

和泊丸ハ山港ヨリ和泊港マデ當日ノ夕便ニテ約六時間半ヲ要
スル見込ナリ

到着後ノ人員兵器材料等ノ揚陸ヲモ考慮シ遅クモ一三〇〇ニハ
出帆ヲ要セリ

守備隊長ハ概ネ一三三〇迄ニハ...

尚奄美守備隊全地區ニ發シタル空襲警告報ナリシヲ以テ奄美

地區ノ全對空射撃部隊ガ戦闘配置ニ就キ其他ノ部隊モ

警告或連絡等ノ處置ヲ講ジ又砲爆撃ノ損害ヲ蒙ラザル為洞

窟内ニ在リテ他ノ業務ニ服シアラザルヲモ考慮セリ

一三二〇頃ニハ其レ迄ニ到着セル電報全部ヲ翻譯ヲ終リ知り得

タル情報ノミニテハ空襲警告報ヲ繼續スルヲ要セザリシナリ

空襲警告報ヲ解除セル場合ハ別命ナク警告或警告報ニ移リ丙號

戰備ヲトルモノニシテ空襲警告報ヲ解除スルモ警告或ハ殺ニ要員

施セラルナリ 勿論最初ニ述ベタル戦訓ノ意見ハ考ヘザリシ
ニアラズ 否寧ロ常ニ考ヘ居タルフトニシテ熟慮ノ結果解

除ト決心セレナリ

其レ程迄ニ考ヘナガラ何故ニ大事ヲトツテ解除ヲ暫ク待タザリ

シヤマ、

續イテ敵ノ空艦アル場合、本日午後以後何時ノ公算最モ

大ナリマヲ考ヘタルナリ 而シテ守備隊長ハ本日午後出

帆ヨリ明日午前出帆ヲ一層危険ト判断セリ 而カモ和泊丸ハ

一日モ早ク和泊港ニ到着スルヲ要スル状況ニアリキ 而シテ此ノ状

況が一兩日續ク場合ヲモ考慮シテ決心セリ

而シテ爲サバルナリ 遲疑スナリノ内ニ和泊丸ヲ山港内ニ撃テ沈

サレル公算ナキニアラス

徳島ヨリ安全ナル沖永良部島ニ速ニ避難セシムルヲ良策ト判

断セリ 出帆シテ今度ノ結果トナリテハ甚ダ相済マスフト

ナレドモ和泊丸ガ伊仙海岸ヲ離ル、時機ハ敵機來襲算

最モ少ク時刻ナルヲ以テ思ヒ切り出帆セシメタリ 若シ途中ニテ

敵機來ラバ機先ヲ制シテ撃墜スレバヨシト考ヘ居リタリ

撃墜出來ズトモ攻撃精神、敢闘精神ヲ發揮シ射撃

スルニ於テハ敵ハ近寄り得ザルベシト判断シ居レリ

此ハ戦訓ノ教フル所ナリ

敵ガ銃撃態勢ヲトツテ我ニ向ヒ來タル時見敵必殺ノ精神ヲ

振起シ機先ヲ制シテ一發必中ノ射撃ヲナサバ敵ハ沈着シテ

射撃スルヲ得ズ 間モナク逃走スベシ (我ニシテ射撃セ

ザルトキ敵ハ沈着シテ何回モ有効射撃ヲナシ我損害増

大スルハ幾多戦訓ノ示ス所ナリ)

但シ濫射シテ彈藥ヲ浪費スルハ不可ナリ

必中射撃ヲ至短時間 實現スベキナリ

斯ルフトヲモ考ヘ和泊丸ハ大丈夫ト信シ出帆セシメタリ

昨年

末本職古仁屋ニ出張ノ際當番ニ航ト彈藥トヲ携行セシメ對空射撃準備ヲ命ジ航海セリ 當時ハ丁號戰備ナリシモ、丁號戰備下此心掛ケテ必要トスル所ニ奄美地區ノ特色アリ 即チ比律賓作戰後奄美地區ハ完全ニ敵航空機ノ來襲圖ニ入レルナリ 嚴密ニ言ヘバ奄美地區ハ常ニ丙號戰備ナルヲ要スト言フモ過言ニアラス然レドモ全般狀況ヲ判斷シテ平素ハ丁號戰備ニ止メルナリ B29ハサテ置キ日米英飛行機使覽ニ依リ米海軍戰闘機「クラン」ヲ艦上雷撃機「グラマン」ヲ米陸軍爆撃機「ボイング」ヲ「コンソリデーテッド」ヲ「ノースアメリカン」ヲ等ノ航續距離ト徳之島ヲ南方ハ距離トヲ比較研究セバ思ヒ半バニ過グベシ(附録ハニ參照)

ザレバ萬全策ヲ講ジ任務ニ邁進スルトキ必要最下限ノ航海ハ確保セラルベシ 正確セザルベカラザルナリ、此信念ノ下ニ當日空襲警報ヲ解除セルナリ

第三 結論

以上述べタル所ハ卒直ニ所見ニ對シ卒直ニ答ヘタルソミナラス本日以後ノ戦力強化ニ直チニ影響スル所大ナルヲ思ヒ忌憚ナク所信ヲ披瀝セルニ過ギズ 敢テ過去ヲ責ムニアラス 又自己ヲ辯解スルニアラス 眞ニ守備隊強化ノ爲ニ微衷ヲ述ベタルノミ、虚心坦懷之ヲ聽キ本日以後ノ戦力ヲ培ハンコトヲ切望ス 尚徳之島ノ周邊ニハ常ニ敵潜水艦アリ守備隊ハ行動上防牒ニ細心ノ注意ヲ要スルコトヲ附言ス

附録

一徳之島ヲ南方要點ハ距離

1. 臺灣南端の東方約八〇〇浬、海上ハ徳之島ノ南方約七〇〇浬
 2. ルソン島北端、東方約七〇〇浬、海上ハ徳之島ノ南方約一〇〇〇浬
 3. 「レイテ」島「タロバン」飛行場ハ徳之島ヨリ約一八〇〇浬
 ニ米軍飛行機航績距離抜萃

機種	航績距離
グラマン艦載戦闘機	最大一、八〇〇浬
グラマン艦載雷撃機	二、三〇〇
ボーイング B17	六、〇〇〇
ブンスリデーフォード	七、五六〇
ノースアメリカン B25	五、一八一

ニ戦備ノ度

甲號戦備 敵有力部隊ノ陸(著陸)攻撃ヲ虞ル場合ニシテ
 全部隊戦闘配置ニ就キ、隨時戦闘ヲ開始シ得ルノ準備
 ヲ整アルモノトス

乙號戦備 敵、上陸(著陸)ノ算少キモ空襲又ハ砲撃ヲ受ケル
 虞アル場合ニシテ各部隊ハ對空並ニ海上警戒ヲ嚴ニシ所要ニ
 應ジ監視哨ヲ増加スト共ニ水際戦闘ノ準備ヲ整ヘ對空
 射撃ニ任ズル部隊ハ全部隊戦闘配置ニ就キ爾餘ノ部隊ハ
 警戒連絡ノ處置ニ専念ナキヲ期シ砲爆撃ノ損害ヲ被ラ
 ザル如ク掩蔽ス、空襲警戒報發令セラレタル時ハ別命ナク本
 戦備ニ移ルモノトス

丙號戦備 敵機動部隊近接、微アルカ又ハ敵飛行機、潜水
 艦偵察ノ虞アル等、警戒ヲ強化スルノ要アル場合ニシテ各部隊
 ハ對空並ニ海上警戒ヲ嚴ニスト共ニ對空射撃ニ任ズル部隊ハ

一部ヲ必テ戰鬪配備主力ヲ以テ警告我配備ニ就キ爾餘ノ部隊ハ迅速ニ掩蔽下ニ待避シ得ルノ準備ヲ整へ特ニ我が配備兵力等ヲ暴露セザル如ク留意スルモノトス 警告我警告報發令セラレタル時ハ別命ナク本戦備ニ移ルモノトス

丁 疏戦備

我が哨戒圏及電波警告我圏内ニ敵ヲ認めザル場合ニシテ各部隊ハ主トシテ對空及海上監視哨ニ依リ警告戒ヲ行ヒ爾他ハ教育訓練築城交通作業其他ノ勤務ニ從事ス 但シ常ニ敵ノ奇襲攻撃手ニ對應シ得ル如ク所要ノ準備ニ遺憾ナキヲ要ス

